

## 鬼北句会

バス降りて二分が遠し炎天下  
 遺されし吾も六十路や終戦日  
 炎天や放牧牛の見あたらす  
 雷鳴やひざに粉菜こぼしけり  
 燃え咲きて火の見櫓に凌霄花  
 炎天に玉音聞きて六十年かな  
 黙々と同行二人炎天下  
 布袋草藍と青空瓶覗く  
 歯真白目玉ぎよろぎよろ日焼の子  
 一病も息災なれや夏の果  
 帰り来て日傘たためば日の香り  
 裏口へ廻るつき合ひ白桔梗  
 早畑いっかな鍼をよせつけず  
 凌霄花赤赤ともえ日は沈む  
 一人居にさげ得ぬスイカ届きけり  
 夕立の去りてまさをの空残り

大川 眺春  
 毛利 知子  
 善家 信景  
 善家 三代  
 善家 章  
 上甲 正志  
 上甲 武英  
 兵頭イソ子  
 松本 久江  
 滝本 明  
 松岡 寛孝  
 芝 都留  
 新倉地映子  
 芝 光恭  
 白敷フサ子  
 上甲 斗志

## きほく川柳会

若葉照りみごとに映える庭の木々  
 草花をつないでママのネックレス  
 石楠花にうもれて若い妻のまま  
 刺身には妻いっばいを付けて盛る  
 愚痴一つ風は黙って聞いてくれ  
 熱愛は過去の夢かよ蜃気楼  
 あった箆仕舞ったはずとさがしもの  
 大きな口開けてばあちゃん昼寝中  
 舞い終えた余韻にひたる舞台裏  
 どうしてこう忙しいのかボケられぬ  
 ツワブキを見て思い出す里の海  
 桃の花あの子の頬と同じ色  
 ご意見番昔はいたよ街の中  
 田舎道すれちがう人好きな人  
 じりじりと嫁は姑をおびやかす  
 下戸の子が呑むとみんなが不思議がり

武田 浅美  
 高田トヨ子  
 若宮 賢敬  
 島山 千歳  
 兵頭 紀子  
 水野 貞子  
 都 瞳  
 宮本ヨリヲ  
 宮脇マサエ  
 山本 益恵  
 大西 広洋  
 松本 実  
 那須 栄山  
 芝 幸子  
 土居 恒三  
 村上よしこ



## 大きくなったら 三島小学校

ぼくは、あるいとあつがま えるけいさつかんになりた す。あるいとあつがま ンなごまります。たいせつ おかねをどられたら、たいへ だがです。		けいさつかんになりた ぼん だば ひろと
--	--	-------------------------

わたしは、かんごしにな いと思、ていませ。けがら うさの人をなわしてあげられ るんです。それに、かんごし んのつらい気持ちをわかって けて、ほげましてあげられ いせへなごまらからです。 これからたごさんへんきよ して、やさしくてり、ばな こしさんになりたいてす。		けいさつかんになりた ぼん だば ひろと
--	--	-------------------------

わたしのしゅう菜のゆめは、 かんごしになることす。前 おばあちゃんがかんごし 人したとき、どてもんるし な顔でおまてました。わた 早くかんごしをなめてあげ いと思、ていませ。けがら 人ぬいべんきようまして、 なをなましてあげたいが しになりたいてす。		しゅう菜のゆめ 3年 榎田ひかる
--	--	---------------------

ぼくのしゅう菜のゆめは、 かんごしになることす。前 おばあちゃんがかんごし 人したとき、どてもんるし な顔でおまてました。わた 早くかんごしをなめてあげ いと思、ていませ。けがら 人ぬいべんきようまして、 なをなましてあげたいが しになりたいてす。		ぼくのゆめ 4年 宮川 継平
---	--	-------------------